

令和2年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブ・ラーニング、ICTを利用した授業を実践する。 〔5教科による、年2回の研究授業を行い、全職員で授業検討会を行う。(前期はICTを利用)〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前期は新型コロナウイルス感染症対策に伴う休校等で、研究授業を行えなかったが、後期に2回、前期分も含めて行うことができた。全職員で検討会を行なう形式が定着した。 S41HRで、スマートフォンを使った授業を試行した。来年度全クラスで実施する際の参考になった。 ICTを利用した授業実践が増えた。 全教室への電子黒板の整備をお願いしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを活用した授業は、ICT授業に大きく前進。今後は内容が求められる。 色々、模索しながらも研究授業、検討会の定着嬉しく思います。 電子黒板の整備、是非進めて欲しい。 公立の小中学校では、一人一台のタブレットの対応、電子黒板の整備が進んでいます。公立に遅れることのないようにICT環境の整備をお願いしたい。
	授業動画視聴・オンライン授業	<ul style="list-style-type: none"> 学校のICT環境を整え、全職員が授業動画作成、オンライン授業のスキルを身につけることで、ICT教育の充実を図る。 生徒の授業動画視聴・オンライン授業を推進し、不意な事態による臨時休業に対応するために、生徒が家庭で学習を行うツールの1つとして活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、Wi-Fiが整備され、教員のICTを使った授業のスキルが向上した。 動画視聴、オンライン授業共に長所、短所はあるが、緊急時に活用できることが1年間の実践で分かった。 緊急時に限らず、定期的にオンライン授業を行い、技術の向上、研究に努めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業、授業動画の作成等の取り組みは、素晴らしいことなので、校外への宣伝に広く使ってほしい。 緊急時に限らず、定期的にオンライン授業を実施して欲しい。 オンライン授業では、先生方のご苦勞を感じました。ありがとうございました。 この機会に、多様な形の授業ができるようになったことは良かったと思う。
②進路指導の充実	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> 3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示。 企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(13社予定) また、オンラインによる企業説明会を初めて実施する。 企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。 徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者53名内定。その他2名は、消防士、競輪学校を目指して再受験の予定。 今年度求人数は、昨年7割であったが、影響は少なかった。ただ、採用試験が1か月遅れの10/16以降となり、行事との関係で指導が行きとどかない点もあった。また、オンラインでの企業説明会も実施された。 企業を本校に招いての説明会は6月(3年生)、11月(2年生)、3月(1年生)に実施した。 外部講師を招いての面接指導、2年次からの新聞記事まとめノートの提出も効果があった。 卒業生を招いての指導、アドバイスの企画は好評である。 各学年にふさわしい指導、意識付けができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、就職への対応は難しい面もあったと思うが、これまでの実績が本年度の結果に表れていると思う。 就職希望者に対しての説明会、卒業生を招いての指導・アドバイス等、とても役に立ちました。また、進学、就職を迷っている生徒にも、早くから進路を考える機会になり、今後も更に充実させてください。 1年生も企業説明会に参加させていただき、参考になりました。 就職先での定着度、気になるところです。
	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学&中堅以上私大6名以上(一般・推薦・AOを問わず) 高3生への面接・小論文指導強化 高1・2年生の学力向上、進研模試で全国平均(偏差値50)以上の生徒を、大進・中高各クラス3名(特進は5名以上)以上育てる。 進研模試・基礎力診断テストの事前準備・結果データ活用強化 各生徒への個別学習指導(放課後希望学習・スタディサプリ) 学習習慣定着(スコラ利用強化) 進路目標づくりの充実(現在実施中の目標設定課題・進路G・適性検査・進路調査を融合させる) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学&中堅以上私大6名以上は達成。 コロナ禍で、大学推薦入試が遅れ、推薦入試の準備、指導がかえって十分できたと感じている。 低学年層へのアプローチは、次年度以降、スタディサプリの全員受講、スコラ(手帳)の活用などを実施予定。 生徒の進路希望に合わせた学習指導、入試形態の研究、共通テストで得点を取らせるための研究をグループで実施していく必要を感じる。 特進クラスを新設したが、入学生がいなかったことは残念である。国公立大、私立上位校を増やすには、推薦・AO入試対策を徹底することが近道であるように思う。 基本的なことであるが、学習習慣の定着をどのように実現していくか、考えていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、早めの(高校2年時)見学会への参加が、役立った。今後も早めの対応が必要になると思う。 進路決定に際して、先生方のアドバイスがとても重要だと思います。 少子化が進む中、生徒確保のためにも、中堅以上の大学合格者をコンスタントに出せるよう、丁寧な指導をお願いしたい。 進路実績が伴わないと、特進コースへの魅力を感じないのではないのでしょうか。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 「your steps」に従い美しい所作を指導する。(椅子の掛け方、歩き方、ドアの開け方、お茶の入れ方など) 会食指導は礼法にかなった食事作法を実践する。 会積・挨拶の励行をし、場に応じた挨拶の指導をする。 「授業をする上での留意すべき事項」に従い、礼法指導に即した授業実践をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「初期指導」が十分に行えず、特に新入生には、学校生活に慣れるのに苦労した1年であった。挨拶、会積、会食指導など、毎日の積み重ねがものをいうと実感した。 全体的には細かく指導ができていたため、落ち着いた学校生活が送れている。 お茶当番、会食指導などは本校ならではの特色であるので実施する意義を改めて確認し、積極的に実践したい。 毎週月曜日1限に校長講話を聴き、生徒は感想を提出する。その内容をフィードバックすることにより、生徒間の共感を得、また、育てたい生徒像と自分自身を重ねて見るができてきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 礼法は、知識だけでなく実体験を積み重ねながら身につけていくものです。お茶当番、会食指導など続けて行ってほしい。 今年度はコロナの影響により、休校が2か月ほど続き、1年生は不安な時期を過ごした。今では、校則を理解し、順心生らしく成長したように見える。 礼法教育は順心の強みだと思っています。 順心高校が、他校とは違うということを、礼法を通じて保護者目線で感じることができました。 日本人として、残しておきたい指導だと思っています。ただ、公立中学の生徒が、どう受け止めるかという観点も必要かと思っています。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「情報収集→まとめ→分析→報告」を繰り返し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 一報を通して迅速な情報共有に努める。 週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢を指導する。 校風向上週間、マナーアップキャンペーンで清楚な身なりを指導する。 清掃活動を通して環境美化に努め、施設を丁寧に使用することを指導する。 教室内の整理整頓を通して私物の管理を正しく行い、清潔な生活感覚を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一報を通しての情報共有がしっかりとできており、また、学校・家庭・教員間・養護教諭・カウンセラーとの連携も必要に応じて取れている。 初期指導が十分に行えず、清掃活動の指導が徹底できなかった。 校風検査では、生徒の意識が高いのか例年に比べ再検査の生徒が少なかったように感じる。 スマートフォンの校内持込許可などの動きなど、大きな変化も感じられる中、従来から行われてきた指導を大切にすることの必要も感じている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来校時に、生徒から気持ちの良い挨拶を掛けてもらえることを、嬉しく思う。ただ厳しく締め付けるのではなく、厳しい中にも生徒に選択する自由を持たせることも大事だと思っています。 学校の敷地内、校舎から、清々しさを感じる程、清掃活動や施設を丁寧に使用していることがわかります。 携帯電話の校内への持ち込み許可により、保護者の安心感は広がると思います。 スマートフォンは便利な反面、危険な面もあるので、今まで以上に使い方の指導をお願いします。
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信を、学年主任・担任と保護者とのコミュニケーションの一つと捉え、学年・学級の状況を伝える。〔月1回発行〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年・学級により差があり、月1回の発行は徹底できなかった。 簡単な内容ではあるが、毎月の予定を明確に伝える手段として、また、成長と学習への取り組みを促すため、毎月の発行を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者としては、学校の様子が少しでも分かるとありがたい。それは、安心にもつながるので、是非、定期的に発行していただきたい。 月1回の発行の意義を、職員間で意思統一する必要があるように思う。
	HP・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信のタイムリー性と実用性の向上 フェイスブック、ツイッター、インスタグラムの効果的な利用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、適宜更新されている。 美デ科のSNSの活用が進んでいて、生徒間でも話題になっている。 本年度はコロナによる行事、予定の変更などHPが大いに利用された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPをもっと利用すれば良かったと、感じています。 休校時の予定確認など、大変役に立ちました。また、コーラスコンクールのYouTube配信、とても良かったです。
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を含めた日常の健康観察の実施(個人健康観察表・クラス健康観察カード) 新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインの作成と状況に合わせた検討 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じてスクールカウンセラーとの連絡を密にする。 感染症等の状況や生徒の成長、実態に即した健康教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な価値観の中で、本当に必要な情報を発信していくことが難しく、継続性を持った発信が出来なかった。 ガイドライン等の定着のための工夫が必要。 過去に経験のないような状況の中、感染症対策を含め、細かい指導がなされ、生徒もよく守っていると感じている。 健康観察、動向調査とも早くから取り組み意識付けや確認ができた。 マスクの着用もよく守れていたように思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策、とても大変だったと思います。そんな中での各種の行事開催感謝しています。 マスクの着用は、徹底してできていたと思います。 これからも、念には念を入れて、感染症対策をお願いします。
⑥安全管理	職員防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 危機意識を高めるための避難訓練の実施(7月 10月) 集団下校訓練を行う。 消火訓練、救急対策講習会などの訓練を通し、職員の意識向上を図る。 職員の役割分担の周知、徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、2回予定していた訓練は、11月に実施した地震防災訓練のみとなった。集団下校訓練も併せて行い、前回の改善点をチェックすることができた。 この時期だからこそ、感染症も意識した避難訓練が出来たら良かったと思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、訓練が1回になったということでしたが、あえて動かず、様々なことを考える時期であったという捉え方で、良かったと思います。 来年度に向け、従来の訓練に加えて、感染症を意識した訓練の実施をお願いします。